

地域福祉活動情報紙 No.8

なばりんく



6・7月号



しあわせ写真

みんなの笑顔が
いっぱい!!

名張育成園まつり



まちびと探し

今月の
まちびとさん



ゆりがおかとうげいじゅく「にそくあん」
百合丘陶芸塾「仁則庵」

すぎもと のりこ
杉本 則子さん(58)

「食卓に並ぶ食器はすべて自分で作りましたよ」と自信を持って話す陶芸塾講師の杉本さん。出来上がって終わりというだけではなく、実際に使うまでが一つの作品であり、様々な用途があるので型に縛られない作品作りを教えている。

桔梗が丘公民館の陶芸教室参加をきっかけに、平成13年に陶芸塾『仁則庵』を開講。全工程を自分1人で行うという陶芸教室で得た経験は、“何でも自分でやりとげないと気が済まない”という性格もあって、自分の中に“これだ!”という気持ち芽生えたという。自分自身で完成させるという嬉しさをサークルの生徒にも伝えたいと、現在の活動につながっている。

杉本さんは「私が手伝えれば楽にできます。しかし、それでは意味がない。一人ひとりが失敗を重ねながらも自分の力で制作することが重要なんです」と。そのため、窯で焼く作業以外は一人で行ってもらうようにしている。また、決まった作品を作るということはず、それぞれが好きな物を作ることができるような焼き方をしており、杉本さんはこれを「お好み焼きと呼んでいますよ」と話す。

現在制作中のお地蔵さんは東日本大震災の被災者に寄贈を予定しており、7色の袋にメッセージカードを入れて送る準備にかかっている。この7色の袋には杉本さんが希望や厄除けの意味を込めて、夜遅くまで一つずつ手作りをしている。

陶芸には「創る喜び・眺める愉しさ・使う幸せがあるのでやりがいがありますよ」と笑顔で語ってくれた。

※百合丘陶芸塾『仁則庵』の活動記事を2ページに掲載しています。

地域ピックアップ!

ゆりがおかとうげいじゅく「にそくあん」

《百合が丘地域》百合丘陶芸塾「仁則庵」



「陶芸という手法を使って自ら生み出すもの創りを味わう」と共に「会員相互の親睦・地域の人々との親睦を図ること」を目的に、平成13年から百合が丘市民センターの創作活動室で月3回のサークル活動をしている百合丘陶芸塾「仁則庵」。同サークルでは、平成16年の新潟県中越地震時に「自分たちでも何か支援出来ることがあるのではないか」と、自分たちが



創った作品を展示・販売する『陶芸展』での売り上げをチャリティとして現地へ寄付したことをきっかけに、これまで毎年2回開催する陶芸展での売り上げを地域の小学校や地域づくり組織、社会福祉協議会等へ寄付する活動を続けています。

第15回目のチャリティとなった5月26・27日開催の『陶芸展』では、東日本大震災の義援金として寄付される予定です。また、震災の傷跡が癒えぬ現地の方々に心安らいでもらいたいとの想いで、お地蔵様と希望の虹をイメージした7色の巾着袋各120個を手作りし、6月5日に義援金とともに岩手県大槌町へ送られます。



《開催日時及び場所》

毎月第1・3火曜日9:30~16:30、毎月第2土曜日12:30~17:00 百合が丘市民センター

～私の一冊文庫～

『しほりの写真展』『小学校の教科書と国語の教科書に出てくる本展』

日時：7月20日(金)～26日(木) 10:00～16:30 (最終日は16:00)

場所：桔梗が丘公民館 1階ギャラリー (名張市桔梗が丘6-1-1 31-4)

『しほりの写真展』

しほりさんは、つばさ学園を卒業後、携帯で写真を撮る楽しみを知り、今はデジカメで撮影しています。車椅子からのアングルもあります。彼女のまなざしをぜひ一緒に楽しんでください。



『小学校の教科書と国語の教科書に出てくる本展』

今の子ども達はどんな教科書で学んでいるのでしょうか。名張市内の小学校の教科書が昨年度から新しくなっています。そこで今回は、名張の子ども達が使っている教科書をすべて展示する事にしました。特に国語の教科書に載っている市立図書館の蔵書の本や絵本をできる限り展示します。200冊以上あります。会場で一緒に楽しみましょう!!



～私の一冊文庫～

絵本や写真など子どもから大人まで、障害の有無を越えて楽しめる文庫です。文庫の管理・運営をし、絵本の読みきかせもしています。ゆったりとお茶を飲み、語らい、本を読むことができます。お互いに支えあう出会いの場となることを願い実施しています。

《活動場所》桔梗が丘サロン

(桔梗が丘1-6-39)

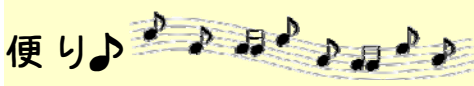
開催日時等詳しくは、市民活動支援センターホームページ(登録団体紹介→保健・医療・福祉→私の一冊文庫)をご覧ください。

トーク ボランティアリレーTalk! しだ としこ 志田 登志子さん (青葉代表)



初めて私がボランティアを行ったのは24年前のさつき台の夏祭りでした。子ども会の子ども達が模擬店を開き売上を寄付する活動を手伝ったのが始まりで、そしてそれが今の青葉での活動につながっています。年5回青葉の皆さんと模擬店を開き、現在は薦原小学校へ本を寄付しています。古い図鑑が新しくなって、楽しい物語の本も増えたと喜んでもらっています。また年8回程皆で音楽慰問にも出かけています。ミュージックベル・クラリネット・ダンスによる施設慰問ですが、音楽が始まると利用者さんも子育て中のママや子ども達も皆さん笑顔になります。楽しい時間を共有しこちらまで幸せな気分になります。これもベルやダンスを根気よく教えてくださる福廣先生と上北先生のおかげだと感謝しています。他にも子育て支援「さつきっ子」のお手伝いや児童養護施設の週末里親ボランティアも行っています。ささやかな事でも長い年月ともなれば貴重な体験と数々の思い出がいっぱいで、これが私の元気の源となっています。

音楽工房



「港町十三番地」

「港町十三番地」は、美空ひばりさんが歌われ、昭和32年にレコードが発売された曲です。梅雨のジメジメした季節になりますが「港町十三番地」は明るい曲なので、みんなで歌うとスカッと気分が晴れそうですね。

昭和の歌姫、美空ひばりさんは、平成元年6月24日に52歳という若さでお亡くなりになりましたが、類い稀なる天性の歌唱力で演歌、歌謡曲、ポップス、ジャズ…とあらゆるジャンルを歌い上げました。戦後の歌謡界に大きな足跡を残され、今もなお多くの人たちに愛され続けられています。

さて、美空ひばりさんのヒット曲はたくさんありますが、一番売れたレコードは何だと思われますか？
正解は「柔」でした～。「柔」は、東京オリンピックの年に大ヒットしましたが、今年もオリンピックイヤー！！
楽しみです。皆さんも私たちと一緒に楽しく歌を唄いませんか？是非お待ちしております。

“みんなでいっしょに唄いませんか”

◆ 6月27日(水)

◆ 時間：10:30～11:30

◆ 会場：名張市総合福祉センター
ふれあい

◆ 対象：名張市内在住の65歳以上の方

◆ 7月10日(火)

◆ 時間：13:30～14:30

◆ 会場：国津地区まちの保健室
(旧長瀬保育所)

◆ 対象：名張市内在住の方

上記いずれも

※参加費無料・申込み不要

6月、7月の 介護者サロン “さくら喫茶”

日頃、家族の介護をされている方！！
“さくら喫茶”でお茶を飲みながら、ちょっとひと息つきませんか？

開催日時・場所

- ・ 6月13日(水) くにつふるさと館
- ・ 7月 3日(火) 梅が丘市民センター

上記いずれも

開催時間 13:30～15:30

参加費 100円 (申込み不要)

“さくら喫茶”に来て、「いろんな話を聴いてもらってよかったわ。気持ちすがすがしいわ！」



☆お茶、コーヒー、紅茶、お茶菓子等をご用意してお待ちしています。
ご都合のつく時間には是非お越しください。

主催：名張市社会福祉協議会

協力：名張市家族介護者の会「楓の会」

手づくりレシピ紹介! ~旧暦で 端午の節句 粽(ちまき)づくり~



粽は中国から伝わり、端午の節句の供物とされています。昔の人の知恵と自然の恵みから旧暦に作るのでしょうか? また笹とカヤには防腐効果があり、古くから食品の保存等に使用されていると言われています。

『作り方』

- ①もち米は、前日に洗って、水につけておく。
- ②もち米を水からザルに上げ、水を切ったもち米をセイロに入れる。
- ③米粉を器に入れ、熱湯を少しずつ入れ混ぜ合わせ、耳たぶぐらいの柔らかさに練り、②の上に③を入れ、蒸す。
- ④蒸し上がれば、餅をつくようにつく。もち米と米粉の蒸しの部分がうまく全体にからむように、最初は練り合わす様につくと、もち米と米粉の部分がうまく一緒になる。
- ⑤餅がつき上がったたら、赤ちゃんの足のような形にお餅を作り、熱気が抜けるまでそのまま置く。
- ⑥あら熱が取れたら、お餅に笹の葉をかぶせ、カヤの葉で巻く。
- ⑦粽は向きを揃えて束ね10分~15分位茹で、好みの物を付けて食べる。

材料(10個分)

もち米:190g
米粉(あらびき):380g
(もち米と米粉の割合は1対2)
笹の葉:10枚
カヤ:1個につき5~6本位
熱湯:適量

旧暦の節句の日(6月24日)
期間限定で“ちまき粉”を販売しているようです。ちまき粉を熱湯で混ぜて簡単にできる方法もあります。

レシピ提供: ふれあいサロンひまわり

当サロンでは、6月10日(日)午前10時~赤目町柏原公民館で、昔ながらの“ちまき”作りをします。参加費200円が必要ですが、申込は不要です。興味のある方は、是非体験してみたいはいかがでしょうか?!

名張のむかしを歩もう!



本町は名張藤堂二万石の名張のまちづくりの基軸として栄えてきたまちです。城下川に架かる大手橋から新町まで八百屋、魚屋、すし屋、食堂、銘菓屋、料理旅館、料亭、医者など数軒づつあり、呉服屋、荒物屋、雑貨屋なども7~8軒づつあり、60数軒の商店がありました。また、本町の最盛期には名張信用組合(昭和27年~)、中京銀行の前身である八紘(後の大道)無尽本店、八三銀行と合併した百五銀行名張支店(大正9年~)、中野証券など4つの金融

機関が集まった名張経済の中心地でした。

歴史的にも高札場跡、旧一昇堂(県下で3番目に古い寺子屋)跡や高吉公六井戸等その他市指定文化財も数点所蔵されています。本町のお宝として①江戸時代文化、文政頃1800年代初期に製作された地車(だんじり)②江戸時代の絵図にも描かれている“ひやわい”③江戸川乱歩生誕地碑などがあり、現在の町並みでは思いを馳せるばかりですが、旧跡を散策しても数時間はかかる町です。

※ おきつもを語る会 山口 勝義



協力:おきつもを語る会(同会は、名張の昔について、見聞や体験で得た習慣、行事など座談会を通じて参加者と共に語り合い、資料にまとめ冊子にするなどして、多くの人に名張の歴史や文化を伝える活動を行っているボランティアグループです。)

発行:社会福祉法人 名張市社会福祉協議会

名張市丸之内79番地

名張市総合福祉センターふれあい内

電話番号 63-1111

FAX番号 64-3349

ホームページ <http://www.nabarishakyo.jp>

Emailアドレス volunteer@nabarishakyo.jp

発行部数: 1, 150部

《設置場所、協力店舗》

総合福祉センターふれあい、市民情報交流センター、各公民館・市民センター、こども支援センターかがやき、武道交流館いきいき、名張郵便局、錦生簡易郵便局、近大高専、名張市役所、名張市立病院、総合体育館、協力店舗(いいの、吉野豆腐、大為陶器、はなびし庵、矢の五薬局夏見店、山平たばこ店、cafémjuk、booksアルデ、サロンきずな、やなせ宿、ひまわり書店、大和屋)

※設置協力店舗募集中です!